

## アクティブラーニングの動向

### 1. アクティブラーニングとは そのねらい

本をただ読む（知識をなぞる）、説明を聞くなど受動的に得た知識を、振り返って自分の言葉でまとめてみる、説明する（口頭で、記述で）など自分で考えて確認する、さらには使ってみることで、知識やスキルを自分のものとして定着させること。

アクティブにする対象は、身体的なこと行動だけではなく、学生の「頭の中」であり、学生が学習に取り組む姿勢である。

### 2. アクティブラーニングの背景

社会的背景	大学における変動の例
・「知っている」だけではなく、使える知識、課題解決のための知識の重視 ＝知識基盤社会	→浅い学習から深い学習の重視へ
・自律的に学び続ける学習者である必要性 ＝学習社会	→学習の方法の学習重視（初年次教育、スタディスキルズ）
・情報工学の革新がもたらす情報獲得の容易化 ＝高度情報社会	→オンラインを用いた反転授業へ

### 3. アクティブラーニングの特徴

アクティブラーニングでは、専門知識同様に、自ら学習するためのスキルや責任の姿勢の修得を重視例)

- ・認知のスキル（比較する、分析する、評価するなど）
- ・コミュニケーションスキル
- ・チームワークスキル
- ・計画・実行、運営するスキル
- ・時間管理など、自己コントロールのスキル
- ・振り返って熟考する姿勢
- ・自らの関心や目的によって知識習得に取り組む姿勢

### 4. アクティブラーニングの方法

① 規模：個人で、ペアで、小グループで、チームで、クラス全体で、授業内外の活動で

② 学習方法：

双方向授業、議論型授業、発表授業、PBL、TBL、ケーススタディ、ロールプレイ、反転授業・・・